

# 美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



完成間近の市民会館(写真中央) 1968(昭和43)年 当館蔵

## 目次 Contents

### 01 特集 特別展「描く人、安彦良和」 過去最多の入館者

02 展覧会コラム1 企画展「勇払幻視／北海道、勇払原野のイメージをたどる」  
～「原／幻風景」に根差す、四人の画家の共演～

展覧会コラム2 企画展「苫小牧の文化財～ひとつものがつながる歴史～」を終えて

03 展覧会コラム3 特集展示「苫小牧ゆかりの書 市内所蔵品展」～地域で受け継がれてきた美～

展覧会コラム4 特集展示「勇払平野の戦争遺跡」～市内各地に残る戦争の記憶～

展覧会コラム5 溶けゆく仏像の諸行無常—中庭展示 Vol.21 風間天心「MELTY BUDDHA」より

04 クローズアップ 苫小牧にカマキリが現れた！～生息情報の収集～

コラム「博物館」開館から40年 賑わった文化の日

報告 埋文センター活動報告

報告 勇武津資料館通信 ～勇払恵比須神社の「方位付手水鉢」～

05 報告 令和7年度事業記録

報告 令和7年春季 展示室の貸出事業

07 館長コラムNO.13 「1年を振り返って」

令和8年度展覧会情報

PR 次回特別展「棟方志功—北方への祈り」

表紙の写真 文化拠点のバトン

特集



ギャラリートーク



チラシ

本展は「機動戦士ガンダム」のキャラクターデザイナーなどで知られる安彦良和氏の回顧展として、2024(令和6)年の兵庫県立美術館を皮切りに、鳥根県立石見美術館、2025(令和7)年の青森県立美術館を巡回して、当館が4館目の開催となりました。安彦氏は北海道遠軽町出身で、北海道での開催を希望しており、当館と釧路市立美術館の2館で開催することとなりました。展覧会会場にはポスターの原画や雑誌表紙を飾ったイラストのほか、安彦氏の倉庫で発見されたポスターのラフ原画や設定原画といった、今回の展覧会が初出品となる資料など、総数800点を超える作品を展示しました。これらの中には、企画構想段階に作成された企画書やアニメ化が実現しなかったキャラクター原画もあります。さらに、今にも動き出しそうなアニメ原画や現在も筆で描かれている漫画原稿など、創作の熱意が伝わる貴重な資料やアニメ原画と対応する映像も展示しました。

当館では初となるアニメや漫画などのサブカルチャーを題材とした特別展であり、普段美術館に馴染みのない層に関心を持ってもらうことが目的の一つでした。結果として、13,217人と美術館にリニューアルしてから最多の入館者数となりました。機動戦士ガンダムのアニメ放送時に親しん

だ50～60歳代の男女を中心に、市外のみならず道外からも多くの方が来館していただき、最終日まで注目を集めました。

会期中は関連イベントとして、講演会と子ども向けワークショップを実施しました。特にワークショップでは、抽選で選ばれた市内の小中学生13人がアニメーション作りを体験しました。安彦氏にアニメーションの種類や技法などを教えてもらい、紙に描いた絵をプロジェクターで連続投影し、講評をいただきました。どのように絵を描くと動いて見えるかなど、アニメ界の巨匠のコメントに、子どもたちが目を輝かせて聞いていたことが印象的でした。この他、講演会には定員80人に対し700人を超える応募があり、会期後半には録画映像を上映しました。

普段、大都市で行われるような展覧会を当館で行うことができ、多くの方にご好評いただきました。アンケート回答者の6割以上が初めて来館されるなど、これまで当館に馴染みのない層に周知できたことが大きな成果でした。アニメや漫画を題材とした展示を求める声も多く寄せられましたので、今後の展示を企画する際の参考とさせていただきます。

岩波 連(主任学芸員/考古・埋文センター兼任)



ワークショップの講師を務める安彦氏



展示風景

## 展覧会 コラム1

### 企画展「勇払幻視／北海道、勇払原野のイメージをたどる」 ～「原／幻風景」に根差す、四人の画家の共演～

本展では、砂田友治(1916～1999)、北川豊(1948～1982)、高橋伸(1950～ )、高橋正敏(1950～ )の4名の画家の作品を紹介しました。いずれの画家も、人間の生と死、そしてその循環を作品のテーマにしており、展示室での個性の響きあいが印象的でした。また、4名はともに青春時代を苫小牧で過ごしたという共通点があり、作品に通ずる点が各人の「原風景」に根差していることも感じられるものでした。縦横

2mを超える作品が共演した展示室では、特にその人物像に圧倒されましたが、その背後に広がる大地、あるいは湿り気を帯びた大気の趣も、鑑賞者に強い印象を残したと思われます。本展では、画家たちの心が根差す「原／幻風景」の表出をご覧いただけたのではないかと感じています。

立石 絵梨子(主任学芸員／美術)



展示風景



## 展覧会 コラム2

### 「苫小牧の文化財～ひととものがつなぐ歴史～」を終えて

2025(令和7)年、苫小牧市は文化財保護条例制定70年、苫小牧市博物館(現在の苫小牧市美術博物館)の開館40年を迎えました。この記念の年に、博物館開館以来40年ぶりに文化財をテーマにした展示会を開催し、苫小牧市の指定文化財が一堂に会しました。

展示では、1980(昭和55)年度から1985(昭和60)年度にかけて製作された勇払恵比須神社の奉納品の複製品と本物の文化財を並べて展示しました。経年劣化により文字や

絵などが肉眼では判読しにくくなっている本物(文化財)と、製作当時の大きさ・色・形を再現したレプリカ(複製品)を同じ空間に置くことで、それぞれの資料的価値(良いところ)を来館者が感じられるようにしました。また、苫小牧工業高等専門学校との共同研究の一環として、3D技術を活用したハンズオン展示を試みました。具体的には、錦岡樽前山神社円空作樽前権現像(原寸大)、樽前山溶岩円頂丘(約6500分の1)、クマ意匠付き浅鉢型土器(原寸大)の3点を

3Dプリンタで製作し、白色プラスチック製の「さわれる文化財」を展示室内に設置しました。

今回の展示を通じて、地域の宝物を大切に、次世代につなげていくことの重要性が少しでも伝わればいいな…と思っています。

佐藤 麻莉(主任学芸員  
／歴史)



展示風景



円空作樽前権現像複製(左)と3D模型(右)

## 展覧会 コラム3

### 特集展示「苦小牧ゆかりの書 市内所蔵品展」 ～地域で受け継がれてきた美～

本展では、苦小牧市内の各所で市民から親しまれている作品の素晴らしさを再発見し、大切に受け継いでほしいという願いを込めて企画しました。

「学び舎の書」として市内各学校の所蔵作品から、「集う場の書」として市内公共施設等の所蔵作品から、それぞれ苦小牧にゆかりのある方々の作品をご紹介します。普段、書になじみがない方にも親しんでもらえるように、鑑賞のポイントをご紹介します、すべての作品に解説を掲示しました。

関連イベントとして実施した、苦小牧東高校書道部の皆さんによる書道パフォーマンスでは、子どもから大人まで100人以上の方にご覧いただき、大変好評の声をいただきました。今後も書の美しさを実感して

いただけるような取り組みを進めていきたいと思えます。

沖津 かな(主任学芸員/書)



展示風景

## 展覧会 コラム4

### 特集展示「勇払平野の戦争遺跡」～市内各地に残る戦争の記憶～

2025(令和7)年度は太平洋戦争の終戦から80年目にあたります。当館ではこれを契機として、勇払平野に現存する戦争遺跡に焦点を当てた展示を開催しました。

戦争遺跡は、戦争の歴史を今に伝える建物や施設などを指しますが、その数は様々な事情により減り続けています。また、その多くは人通りの少ない場所にあるため、日常生活の中で目にする機会は少ないと思われる。今回の展示は、そのような戦争遺跡の存在を広く知っていただければと思い、企画しました。

アンケートでは戦争遺跡について、「多く残っていることに驚いた」、「はじめて知った」などのご意見が寄せられました。今後

も展示をとおして、身近な場所にある遺跡や資料の価値を伝えていきたいと思えます。

岡本 直樹(学芸員/考古・埋文センター兼任)



展示風景

## 展覧会 コラム5

### 溶けゆく仏像の諸行無常 —中庭展示 Vol.21 風間天心「MELTY BUDDHA」より

中庭展示スペースでは、これまで様々なアーティストの方々にこの空間にあわせた展示をお願いしてきました。第21回目となる今回の展示では「MELTY BUDDHA」をテーマに風間天心さんに展示をお願いしました。作者の風間さんは、なんと美術家と僧侶の二刀流(!)。仏像をモチーフに色鮮やかな作品を制作していただきました。ロウで作られたその作品は、溶けゆく姿自体が「作品」となります。会期中、「キャンドル点灯イベント」(全11回)を実施したところ、延べ314人の方々にご参加いただきました。

既成概念を覆すような今回の展示においては、改めて「仏像」という存在について考えさせられると同時に、火ないし光がも

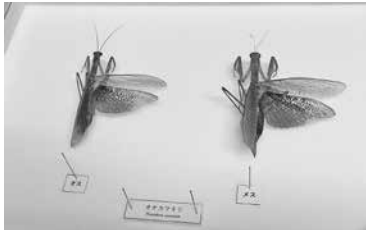
つ温かみ、そしてエネルギー問題など多様な解釈が可能な空間が創出されました。

細矢 久人(主査/美術)



展示風景

## クローズアップ



苫小牧で採集されたオオカマキリの標本

## 苫小牧にカマキリが現れた！～生息情報の収集～

道南を除いた道内では、わずかな生息記録しかないカマキリが、2年ほど前から苫小牧市内で発見されるようになりました。当館ではその動向や分布を探るため、新聞等で成虫や卵のうの情報提供を呼びかけました。その結果、250件以上の情報が寄せられ、そのほとんどがオオカマキリであること、市内全域で確認されていることなどが分かりました。

オオカマキリ急増の原因には、温暖化や人為的な影響などが考えられます。今後、このオオカマキリが定着するのか、また生態系にどのような影響があるのかが懸念されるため、引き続き観察を続けたいと考えています。

江崎 逸郎(主査/自然史)

## コラム



文化の日・無料観覧日の様子

## 「博物館」開館から40年 賑わった文化の日

当館は2025(令和7)年に前身の「苫小牧市博物館」から数えて40周年を迎えました。1985(昭和60)年11月3日、博物館が開館した当時の新聞を見ると、開館当日の午前10時には800人が集まり、夕方までに8,000人を超える入館者があったことが報じられています。博物館はその後、増改築を経て2013(平成25)年に現在の「苫小牧市美術博物館」となります。

昨年の11月3日に実施した文化の日・無料観覧日では、開館40周年記念のキーホルダーを配布しました。当日は、展示解説会や「指のレプリカをつくろう」といった体験イベントに加え、苫小牧縄文会による「わくわく縄文ランド」も開催し、700人を超える方々にご来館いただき、大変賑やかな一日となりました。

出水 幸浩(学芸員/歴史)

## 埋文センター活動報告

苫小牧市埋蔵文化財調査センターでは、今年度も市内の遺跡の調査を行いました。



調査風景

ました。試掘調査を7か所で行った結果、新たに9つの遺跡が登録され、市内の遺跡数は334か所となりました。

令和4年度以降は、遺物の出土数が10点以下の年が続いていましたが、今年度は100点以上の遺物が出土し、久しぶりの豊作(?)に作業員一同喜びの声をあげました。試掘調査は1日中屋外で作業するため、直射日光による暑さや強風による寒さなど、天気の影響を

大きく受ける厳しい環境です。しかし、遺物を見つける喜びや楽しさは、それに耐えるだけの価値があると思えるほど大きなものです。ここ数年は猛暑に加え、クマが多数出没するなど、試掘調査を取り巻く環境はより厳しさを増していますが、まだ見ぬ遺物との対面を楽しみに頑張りたいと思います。

岡本 直樹(学芸員/考古・埋文センター兼任)

## 勇武津資料館通信 ～勇払恵比須神社の「方位付手水鉢」～

勇武津資料館には、様々な目的を持った方が訪れます。苫小牧や勇払の歴史を知りたい方、また勇払地区の文化財見学を兼ねて資料館に立ち寄る方もいらっしゃいます。

数ある文化財のうち密かに人気を誇



苫小牧市指定民俗文化財「手水鉢」  
文久4(1865)年 勇払恵比須神社蔵

るのは勇払恵比須神社境内にある「手水鉢」です。江戸時代後期のユウフツに建立された弁天社や稲荷社、龍神社などを前身とする同社の手水鉢は、文久4(1865)年にユウフツ場所請負人山田文右衛門清富と支配人山田仁右衛門・番人中が寄進したもので、円筒型支柱の上に円形の手水鉢が据えられ、上面を八等分して東西南北とその間に巽坤乾艮(南東・南西・北西・北東)の文字が刻まれています。当時、山田家は本州から船で米や酒、衣服などの商品を選び、この地で生産されるメ粕や塩引鮭、シカ皮などと交易を行って

ました。このため航海の安全や商売繁盛を願い神社を建立し、方位付手水鉢を奉納したと考えられます。方位が分かることにより船の進行方向の天気を見定めることができます。

帆船にとって天候や風向きを確かめることはとても重要です。日本海岸の北前船寄港地の小高い丘(日和山)には、同様の機能を持つ石(方角石)が残されています。全国各地から手水鉢を目的に勇払を訪れる方がいらっしゃる貴重な文化遺産です。

勇武津資料館 武田 正哉  
(主査/歴史)

# 報告

## 令和7年度 事業記録

### 展示事業

#### 《特別展》

##### ■描く人、安彦良和

会期：7月12日(土)～8月31日(日)

観覧者：13,217名

主催：苫小牧市美術博物館、毎日新聞社

企画制作：MBSテレビ

後援：苫小牧商工会議所、苫小牧信用金庫、苫小牧民報社、北海道新聞社

企画協力：PONTOON

協力：アニメ特撮アーカイブ機構、潮出版社、NHK出版、科学映像館を支える会、Gakken、KADOKAWA、九月社、講談社、スタジオぬえ、創通、中央公論新社、東映、東北新社、バンダイナムコフィルムワークス、文藝春秋

特別協力：HBC北海道放送

特別協賛：株式会社三星

①ワークショップ「アニメーションをつくってみよう」

講師：安彦 良和氏

日：7月26日(土)

参加者：34名

②講演会「安彦良和、北海道に生まれて」

講師：安彦 良和氏

日：7月26日(土)

参加者：78名

③ギャラリートーク

日：8月16日(土)、30日(土)

参加者：113名(合計)

④講演会「安彦良和、北海道に生まれて」録画上映会

日：8月16日(土)・26日(火)～29日(金)・30日(土)

参加者：318名(合計)

⑤夜間開館

日：7月26日(土)、8月26日(火)～8月30日(土)

参加者：70名(合計)

#### 《企画展》

##### ■勇払幻視／北海道、勇払原野のイメージをたどる—砂田友治・北川豊・高橋伸・高橋正敏

会期：4月26日(土)～6月29日(日)

観覧者：3,774名

後援：独立美術協会、苫小牧信用金庫、苫小牧民報社、北海道新聞社、NHK室蘭放送局

##### ■苫小牧の文化財～ひとつものがつなぐ歴史～

会期：9月20日(土)～11月30日(日)

観覧者：5,185名

協力：円空作檀前権現像保存協会、国立アイヌ民族博物館、宗教法人錦岡檀前山神社、独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校、苫小牧市立中央図書館、北海道大学、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、苫小牧研究林、勇払恵比須神社、勇武津波切不動明王奉賛会

後援：苫小牧信用金庫、苫小牧民報社、北海道新聞社

①展示解説会

日：9月21日(日)、11月1日(土)、11月24日(月・振休)

参加者：63名(合計)

②歴史見学会「文化財をめぐるバスツアー」

日：10月19日(日)

参加者：38名

③指のレプリカをつくってみよう

日：11月3日(月・祝)

参加者：135名

##### ■苫小牧の美術史—1940—50年代—

会期：12月20日(土)～令和8年3月8日(日)

協力：王子製紙株式会社苫小牧工場、第一洋食店

後援：苫小牧信用金庫、苫小牧民報社、北海道新聞社

①ギャラリートーク

日：令和8年1月17日(土)、2月28日(土)

#### 《特集展示》

##### ■苫小牧ゆかりの書 市内所蔵品展

会期：4月26日(土)～6月29日(日)

観覧者数：3,774名

##### ■勇払平野の戦争遺跡

会期：12月20日(土)～令和8年3月8日(日)

①講演会「勇払平野周辺の戦争遺跡～過去を知り、当  
時を思い、未来を考える～」

講師：乾 哲也氏(厚真町教育委員会参事)

日：令和8年1月17日(土)

参加者：63名

②展示解説会

日：令和8年1月11日(日)、3月1日(日)

#### 《収蔵品展》

##### ■福井正治×渡辺貞一

会期：9月20日(土)～11月30日(日)

観覧者数：5,185名

#### 《中庭展示》

##### ■Vol.21 風間天心「MELTY BUDDHA」

会期：4月26日(土)～11月30日(日)

観覧者：27,506名

①キャンドル点灯イベント(全11回)

参加者：314名(合計)

#### 《その他》

##### ■ウトナイ湖野生鳥獣保護センター・サテライト展示

会期：3月～

#### 教育普及事業

##### ■美術博物館大学講座

対象：一般 登録者数：138名

①「ふるさとの山・樽前山と苫小牧の校歌」・入学式

講師：藤沢 紀世安氏(苫小牧市立豊川小学校 校長)

日：5月31日(土)

②「ヨーロッパにおける絵画修復の現場から」

講師：池田 奈緒氏(修復家)

日：6月21日(土)

③「苫小牧東部の希少鳥類と人間活動の影響」

講師：先崎 理之氏

(北海道大学 大学院地球環境科学研究院 准教授)

日：7月19日(土)

④「開陽丸の保存と活用—江差町が取り組む水中遺跡調査—」

講師：小峰 彩那氏(江差町教育委員会 学芸員)

日：9月27日(土)

⑤「苫小牧における博物館施設のあゆみ」

講師：武田 正哉氏(勇武津資料館 主査)

日：10月18日(土)

⑥「植物化石から知る苫小牧と北海道の古環境」

講師：成田 敦史氏(北海道博物館 学芸主査)

日：11月29日(土)

⑦「苫小牧の歴史や調べ物に ～そくだ 図書館、行こう～」

講師：大竹 郁美氏(苫小牧市立中央図書館 司書)

日：12月13日(土)

⑧「発掘調査結果から見る苫小牧のアイヌ文化」

講師：岩波 連(当館 主任学芸員)

日：令和8年1月24日(土)

⑨「胆振日高の今を彩る美の諸相」・卒業式

講師：細矢 久人(当館 主査)

日：令和8年2月21日(土)

##### ■子ども広報部「びとこま」(全9回)

共催：NPO法人樽前artyプラス

対象：小中学生 登録者数：20名

##### ■古文書解読講座

対象：高校生～一般

初級編(全5回)

中級編(全2回)

##### ■考古学講座

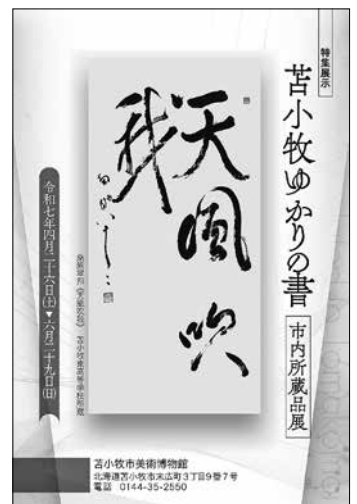
対象：高校生～一般

全3回 参加者：89名(合計)

##### ■遺跡報告会

対象：一般

日：令和8年3月14日(土)



■美術博物館祭2025

日：7月26日(土)～7月27日(日)  
参加者：2,367名

■苫小牧市アイヌ施策推進事業

①講演会「縄文デザイン・アイヌデザイン」  
講師：青野 友哉氏(東北芸術工科大学教授)  
日：令和8年2月28日(土)  
参加者：49名

■ミュージアムラボ

①鹿の角でアクセサリーをつくってみよう  
日：9月14日(日)  
参加者：8名  
②書初め  
日：令和8年1月11日(日)  
参加者：17名  
③絵画鑑賞会(共催：苫小牧市美術館友の会)  
日：令和8年3月6日(金)  
④コケの観察と標本づくり  
日：令和8年3月15日(日)  
⑤ミニチュア土器をつくろう  
日：令和8年3月20日(金・祝)

■無料観覧日

①ゴーゴーミュージアム  
日：5月5日(月・祝)  
参加者：875名  
②あみゅー秋のサンクスデー  
日：11月3日(月・祝)  
参加者：714名

■見学会・観察会

①自然観察会「身近なコケの観察会」  
日：6月7日(土)  
参加者：14名

■郷土学習

期間：9月～11月  
対象：市内小学校23校3・4年生  
参加者：1,365名(合計)

■教員のための博物館の日 in 苫小牧

共催：国立科学博物館、(公財)日本博物館協会  
後援：文部科学省  
日：8月6日(水)  
参加者：63名

■職場体験

日：10月22日(水)  
対象：市内中学校2校  
参加者：5名(合計)

■総合学習・出前講座・講師派遣・アウトリーチ事業

出前講座  
①8月22日(金)北栄児童センター 48名  
「苫小牧の鳥」

②10月15日(水)清水小学校 41名  
「苫小牧のアイヌ文化」  
講師派遣  
①5月9日(金)北光小学校 92名  
「苫小牧川のしぜん」  
②9月30日(火)苫小牧看護専門学校 48名  
「苫小牧の歴史」  
③11月11日(火)苫小牧看護専門学校 48名  
「苫小牧のアイヌ文化について」  
④12月18日(木)苫小牧看護専門学校 47名  
「自然環境の理解」  
⑤令和8年1月29日(木)沼ノ端小学校 52名  
「かわる道具とくらし」  
⑥令和8年2月18日(水) 苫小牧看護専門学校 47名  
「苫小牧の考古学」  
⑦令和8年2月18日(水) 美園小学校 75名  
「かわる道具とくらし」  
⑧令和8年2月20日(金) 美園小学校 75名  
「苫小牧の鳥」  
⑨令和8年2月25日(水) 樽前放課後スクール 16名  
「シュールな技法で絵を描こう」  
⑩令和8年2月27日(金) 苫小牧市立中央図書館 17名  
「大昔の苫小牧」  
アウトリーチ  
①10月8日(水)沼ノ端小学校 52名  
みゅーじあむinスクール  
②11月26日(水)樽前小学校 13名  
みゅーじあむinスクール  
はちとまネットワーク交流ワークショップ  
①光のイメージを描こう  
講師：庭田 薫氏(画家)  
日：10月4日(土)  
参加者：14名  
②コラージュパネルを作ろう  
講師：庭田 薫氏(画家)  
日：10月5日(日)  
参加者：14名

■博物館実習

日：8月19日(火)～8月27日(水)  
参加者：5名

■出光興産北海道製油所連携事業  
「野鳥の教室」

日：9月28日(日)  
参加者：111名

■登録ボランティア

登録者数：55名  
研修：全5回

※各事業の入場者・参加者数は令和8年2月28日現在のものです。  
※明記のない事業の主催は全て当館によるものです。  
※協力等は該当事業のみ記載しています。  
※講師未記載は全て当館学芸員が担当しています。



歴史見学会「文化財をめぐるバスツアー」



美術博物館大講堂 第5講「苫小牧における博物館施設のあゆみ」



企画展「苫小牧の美術史」ギャラリートーク

令和7年春季  
展示室の貸出事業

	展示内容	申請者	期間	来場者数(主催者集計)	展示室
1	苫小牧美術協会春季展	苫小牧美術協会	4月8日～4月12日	524人	第1・2・3

## 館長コラムNO.13

### — 1年を振り返って —

今年度は、計8回の展示事業を開催しました。中でも特別展「描く人、安彦良和」は、美術博物館としてリニューアルオープン後、過去最高となる13,217人の方にお越しいただきました。アンケート結果では、初めて来館された方が半数を超えている中、一定数の方が常設展示室も観

覧しており、当館を知ってもらうきっかけにもなりました。また、苫小牧市美術館友の会の協力により併設された物販コーナーも非常に賑わいを見せました。そして、30年振りに本市で北海道博物館協会学芸職員部会が開催されました。道内69人の学芸員が参加し、美術作品を取り扱う機会が少ない参加者に当館の特性を活かした美術を中心とした研修を通して、知見を深めてもらういい機会になったと思います。さらに、昨年11月3日には、当館

が昭和60年に開館してからちょうど、40年目を迎えました。当時の「年報Vol.1」によると、開館初日の来館者数は、8,300人と記録されており、多くの方々が開館を待ち望んでいたと思います。これまでの当館の歴史と実績を基に、今後も多くの市民に親しまれるとともに未来を担う子どもたちに苫小牧の魅力を知ってもらい、楽しんでいただける施設となるよう努めてまいります。

藤原 誠(館長)

## 令和8年度展覧会情報

### ■特別展

#### 棟方志功—北方への祈り

2026年9月19日(土)～11月23日(月・祝)

### ■企画展

#### はじまりの火山：石川直樹展

2026年4月18日(土)～6月21日(日)

#### 縄文S・F(すこし・ふしぎ)

2026年7月11日(土)～8月30日(日)

#### まちの楽しみ

2026年12月19日(土)～2027年3月7日(日)

### ■特集展示

#### はっけん！樽前山～登山道で出会う自然～

2026年4月18日(土)～6月21日(日)

### ■収蔵品展

#### 都市と幻想

2026年7月11日(土)～8月30日(日)

#### 綴る絵—川上澄生と能登正智の版画絵本

2026年12月19日(土)～2027年3月7日(日)

### ■中庭展示

#### 中庭展示Vol.22 森迫暁夫

2026年4月18日(土)～11月23日(月・祝)

※展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

## PR 次回 特別展

### 「棟方志功 —北方への祈り」

2026年9月19日(土)～11月23日(月・祝)

「世界のムナカタ」として今もなお高い評価を得ている棟方志功(1903～1975)。本展では、故郷、青森を含む「北方」との関係に

焦点を当て、北国が生んだ巨匠の作品に込められた祈りやその着想源を探ります。「板の生命を彫りおこす」という思いから、自身の版画を「板画(はなが)」と称した棟方の独創的な作品世界をお楽しみください。

細矢 久人(主査／美術)

棟方志功《大印度の花の柵》1972年  
木版・紙、青森県立美術館蔵



## 表紙の写真 文化拠点のバトン

苫小牧市民会館は、大ホール、小ホール、会議室などを含む大型公共施設として1968(昭和43)年に開館しました。大ホールは1,800人を収容でき、当時は「北海道・東北随一」の規模を誇る文化の殿堂といわれました。建物のデザインは北国の象徴である雪の結晶、六角形を基調としており、その中には舞台照明など最新の設

備が取り入れられました。一方、小ホールは結婚式場としても利用され、長年にわたり市民に親しまれました。

市民会館は2026(令和8)年3月末に役目を終え、隣接地には市民会館・文化会館・労働福祉センター・交通安全センターの機能を統合した苫小牧市民文化ホールが新たに開館します。

佐藤 麻莉(主任学芸員／歴史)

## 公式Facebook・X 更新中



苫小牧市  
美術博物館だより

令和8年3月31日発行・第13号

編集・発行：苫小牧市美術博物館(あみゅー) 〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7

TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408

URL <https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>

開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで) 休館日：毎週月曜(祝日の場合は次の平日)、年末年始

